

4 昭和49年度沖縄周辺重要水産資源調査

1 目的

沖縄周辺海域で、網漁業、一本釣漁業の対策となる主要魚種について資源調査を恒久的に実施し、それぞれの資源の生態、資源の変動法則を明らかにして、沿岸、近海漁業の管理および合理的生産体系の確立をはかる。

2 調査の概要

1) 個体生態調査

漁獲物を通じて成長と年齢、成熟、産卵、系統群、回遊等について知見を得る。

- a) 体長測定調査
- b) 体長、体重調査
- c) 胃内容物、生殖腺調査

2) 漁獲量調査

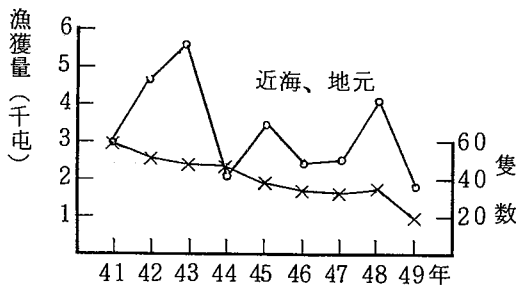
- a) 水揚地調査
- b) 標本船調査

3) 標識放流調査

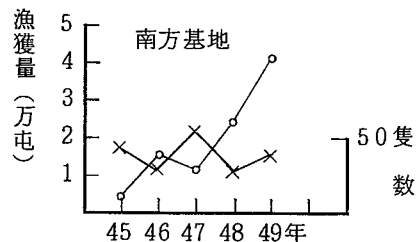
3 調査結果

カツオ

カツオ竿釣漁獲量は近海地元で昭和43年の5,600屯をピークに隔年変動を示し、昭和49年度は最低の1,800屯であった。一隻当りの漁獲量も総漁獲量と同じ傾向を示しているが、昭和44年が最低で昭和48年が最高の110屯を示した。



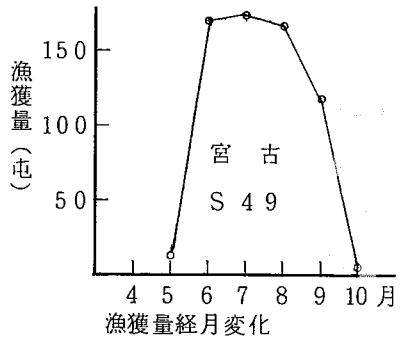
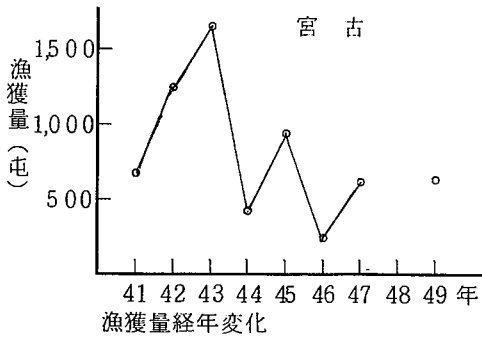
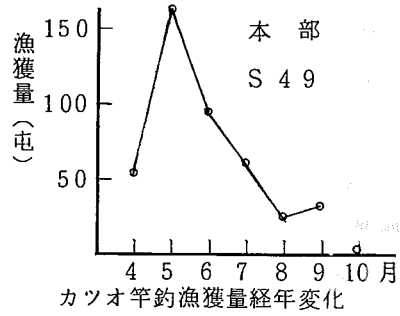
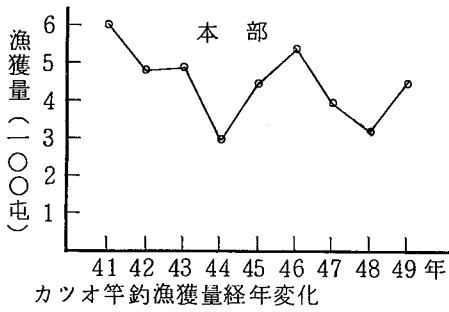
カツオ竿釣漁獲量、隻数経年変化



カツオ竿釣漁獲量、隻数経年変化

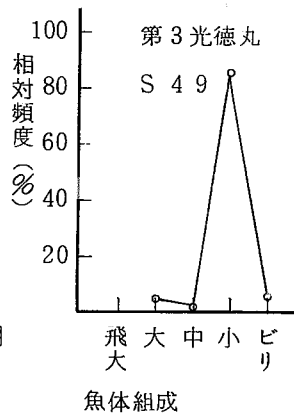
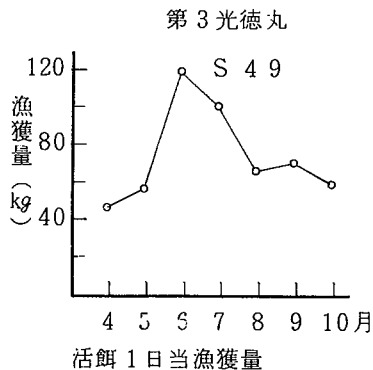
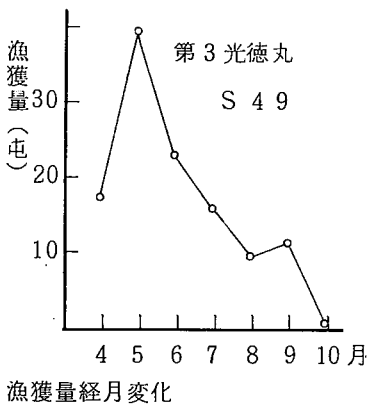
南方基地のカツオ竿釣は昭和45年から始まり、年々増加し(47年を除く)49年に最高の40,488屯を示した。

水揚地調査

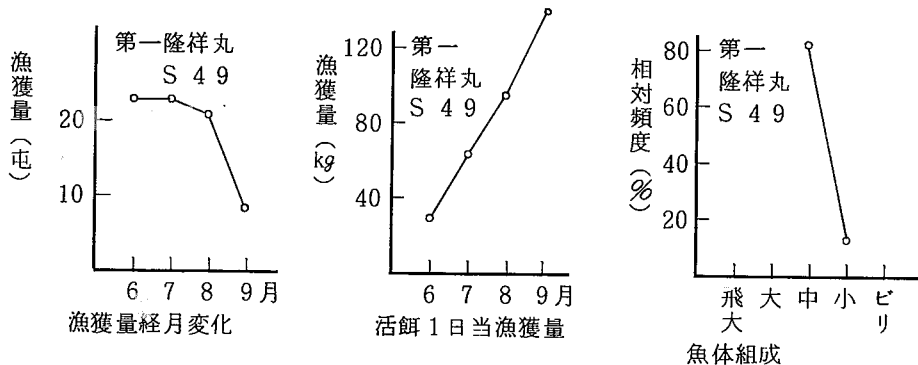


本部での水揚の経年変化は昭和41年をピークに隔年変化を示しながら横ばいかやや減少傾向を示している。漁期は5月をピークに5月から6月間で全体の半分以上を水揚げしている。
宮古地区での水揚の経年変化は昭和43年をピークに隔年変動を示しながら減少傾向を示している。漁期は6～8月がピークで全体の80%弱を水揚げしている。

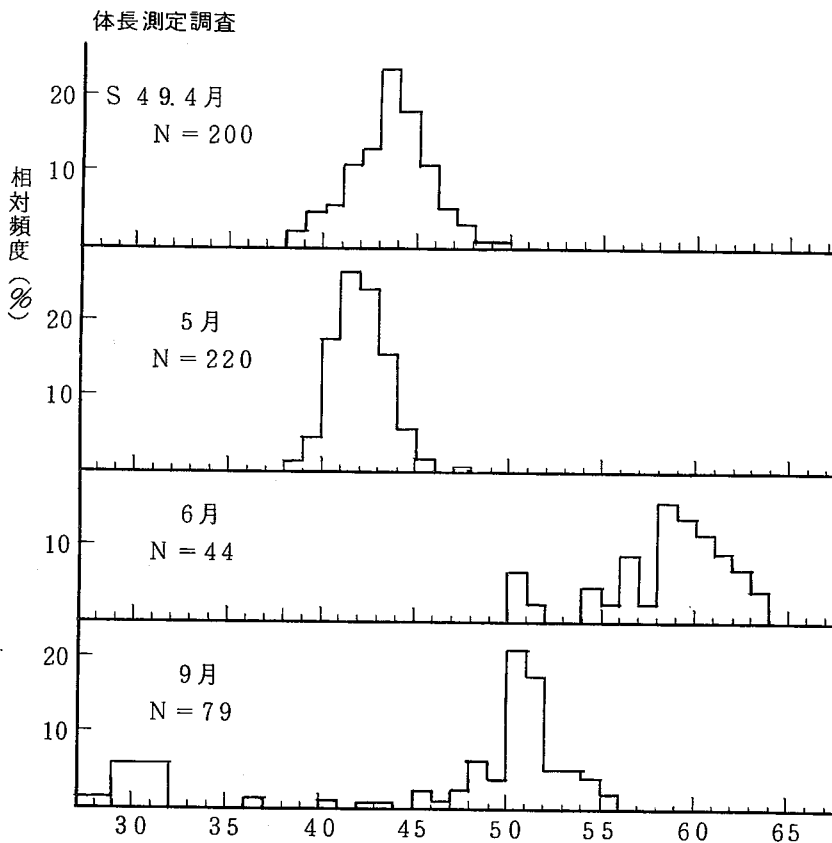
標本船調査



本部の第3光徳丸の水揚のピークは5月で約40屯、1日当りの活餌の漁獲量は6月がピークで約120kg、平均80kgである。カツオ魚群の形態はソネ付が全体の60%で、ついで鮫付が22%である。群の大きさは中、小で喰付は悪い。魚体組成は小判主体で全体の85%を占めた。活餌はキビナゴが全体の58%で漁期を通して出現した。



宮古の第1隆祥丸の水揚は6月～9月で6～8月でほとんど占められる。活餌は9月がピークで1日当130kgで平均93kgである。魚群の形態は鳥付主体で全体の92%、群は中小で喰付は悪い。活餌はタカサゴ類、スズメダイ類混じりが主体で全体の47%である。

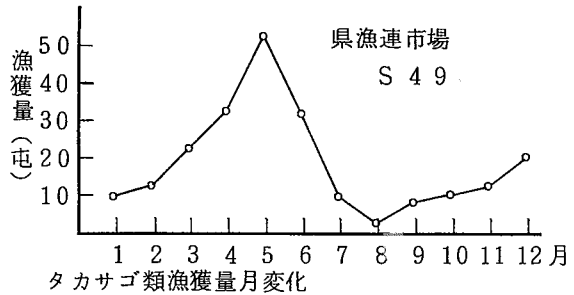
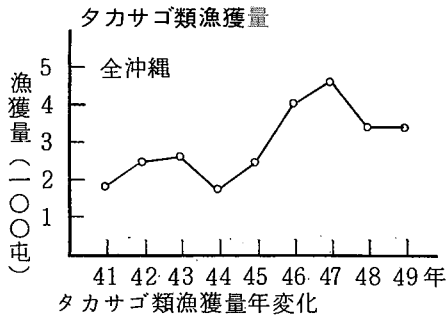


昭和49年4月は宮古島南で漁獲されモードは、44～45cmで平均43.4cmであった5月は沖縄北西ソネ漁場で漁獲されモードは、41～42cmで平均42.0cmであった。6月は久米島沖で漁獲されモードは58～60cmで平均58.0cmであった。9月は久米島沖と西表南で漁獲され久米島沖のモードは50～52cmで平均50.0cm。西表南のモードは29～31cmで平均31.2

cmであった。

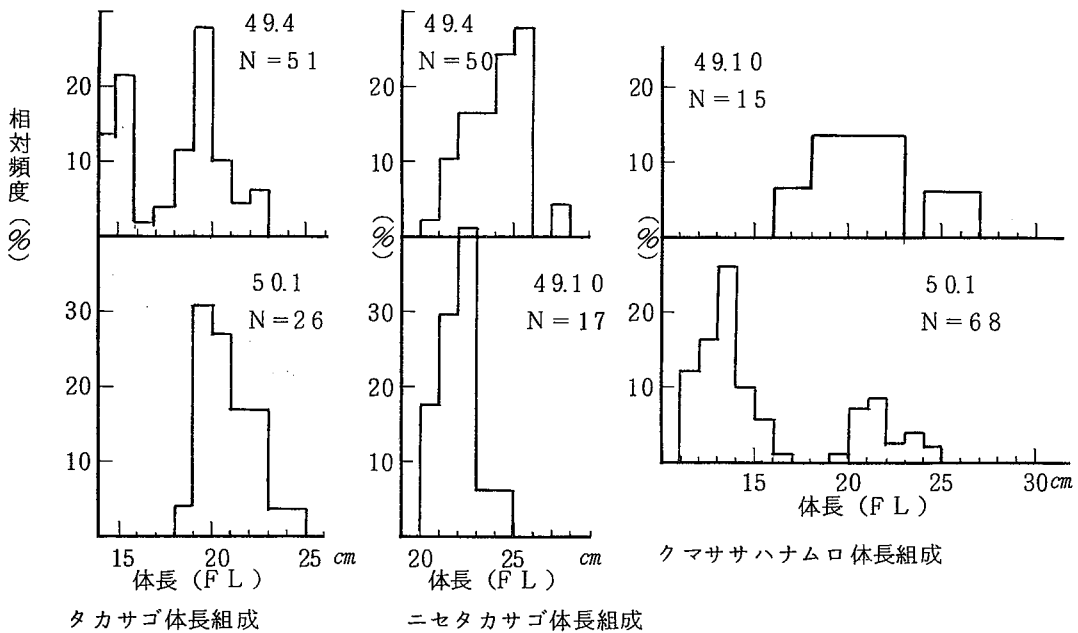
胃 内 容 物

魚類10科、軟体類2種、甲殻類5目出現した。イカ類は周年出現し、久米島沖ではソーダガツオ若魚が侵した。鯶魚はミナミキビナゴが侵した。



タカサゴ類の総漁獲量は昭和41年、44年を最低として47年頃までは増加傾向にあったが48年頃から49年にかけて350屯で横ばい状態にある。県漁連は全沖縄の水揚の6.8%を占め、月別変化をみると5月にピークで月53屯が水揚げされ8月は最低で3屯しか水揚げされていない。

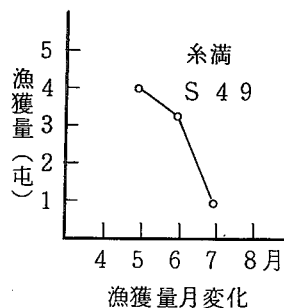
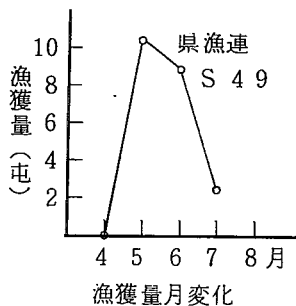
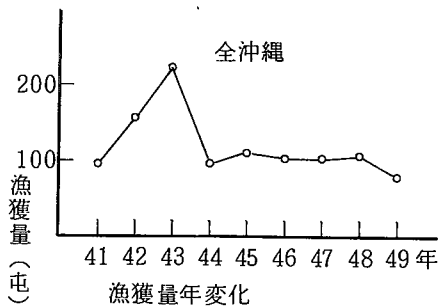
体 長 組 成



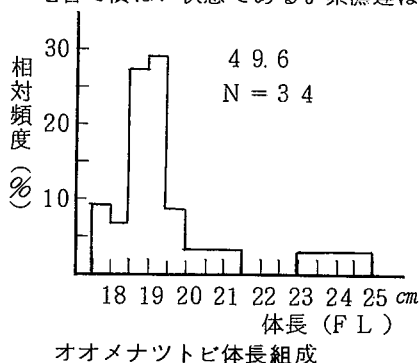
タカサゴの体長組成は49年4月にモードが19~20cm、平均18.0cmであった。50年1月はモードが19~21cmで平均20.9cmであった。ニセタカサゴは49年4月にモードが20~21cmで平均22.9cm、49年10月にモードは17~18cmで平均20.2cmであった。クマ

ササハナムロは49年10月にモードは18~23cmで平均21.8cm、50年1月には13~14cmと20~21cmの2つの山があり平均15.7cmであった。

トビウオ類



トビウオ類の漁獲量は昭和43年の231吨をピークにその後は減少し、44年以降は100吨台で横ばい状態である。県漁連は全体の25%を取扱い5月が漁期のピークである。糸満は全



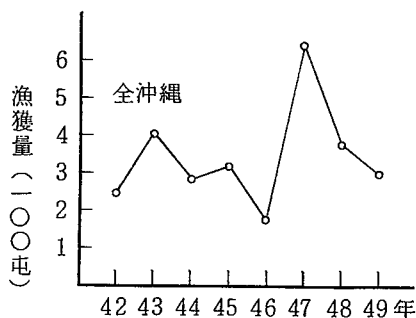
体の12%を占め5月がピークである。

オオメナツトビの体長組成は49年6月にモードが18.5~19.5cmにあった。平均体長は19.7cmであった。

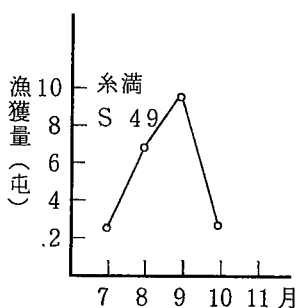
トビイカ

全沖縄の漁獲量は隔年変動を示して昭和49年の645吨を最高に最近は減少傾向にある。糸満漁協は全沖縄の漁獲量の7%を水揚げしているが月別には9月が盛期である。港川漁協も糸満と同じ漁場海域で操業している。

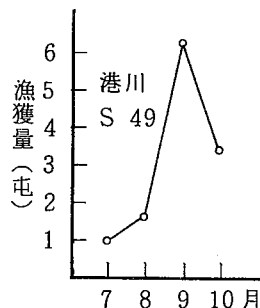
トビイカ



トビイカ漁獲量年変化

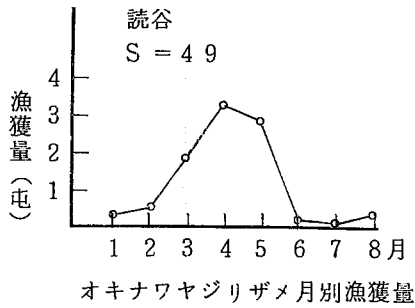


月別漁獲量



月別漁獲量

深海サメ類



昭和48年から始められた漁業で現在読谷の3隻で行なわれている。昭和48年は年間9吨で49年は9.6吨の水揚があった。49年4月の体長組成をみると82~84cmはモードがある。平均は80.7cm昭和49年8月は78~82cmはモードがある。(文責 喜屋武)

